



(財)三重こどもわかもの育成財団 機関誌

～親子で話そう 今日の出来事 一日一回!～

第
116
号

2006

平成18年10月発行

わかすぎ



▲三雲中学校音楽部の皆さん

▲大会発表者の皆さん



▲大会会場の松阪市ハートフルみくも

INDEX

- 02 2004年4月に(財)三重こどもわかもの育成財団が誕生して・・・
- 04 第28回少年の主張三重県大会報告
- 05 最優秀賞「ゴミ問題と仲間作り」

- 06 地域社会における子どもの安全を目指して
～紀北町紀伊長島青少年育成協議会の取り組み～
- 07 わかすぎ時評②
編集後記

〈編集発行〉

(財)三重こどもわかもの育成財団
〒515-0054 三重県松阪市立野町1291
中部台運動公園内

TEL: 0598-22-4911

FAX: 0598-23-7792

URL: <http://www.mie-cc.or.jp>



2004年4月に

(財)三重こどもわかもの育成財団が誕生して……



(社)三重県青少年育成県民会議と(財)三重県児童健全育成事業団(みえこどもの城)が統合して2年半が過ぎました。今回のインタビューは、「みえこどもの城」の管轄である三重県健康福祉部こども家庭室成松英範室長に伺いました。行政の立場と父親の立場からのお話です。

Q

：短期間に統合成果を言葉にするのは難しいと思うのですが、今後のことも含めてご意見をお聞かせください。

成松： 「三重こどもわかもの育成財団」ができて、ネットワークとか繋がりが広がったことはありがたいなと思います。以前のみえこどもの城は展示中心だったのが、参加型というか、地域の方々と一緒になって考えられるようになってきたということはいいいですね。子育てとか青少年育成というのは、施設という拠点だけではなくて三重県技能士会や地元の技術や知恵を持った方々から子ども達が直接指導してもらえる、そういうことが大切ですね。

「三重こどもわかもの育成財団」がまだ見えてないっていうご批判もありますけど、まだ過渡期というか、県内市町で活動している人たちとの繋がりを通じて、いろんなご意見「こんなことだったら地域でもやってるわ」とかも含めてですね、いろんなことを教えていただき、みえこどもの城事業、青少年育成事業もバージョンアップするということを考えれば、そういった形で進める努力をやっていくってということで、将来が見えてくるんじゃないかなと。いろんなご意見をいただいているって事がまず一ついい段階で、まだまだやらないといけないところ、頑張っていかなきゃいけないところもあります。

みえこどもの城で親子の経験は、子どもの成長発見の場

Q

：4歳のお兄ちゃんと1歳の妹さんのお父様と伺っています。お子さんとご一緒にみえこどもの城へいらっしゃった感想はいかがですか。

成松： 上が2歳の時には、カプラの部屋でわけが判らずに積んでいたりしてところですが、4歳になると自分のイメージで積んでいるのがこちらへ伝わりますね。そして、いろんな展示の中では科学の展示っていうものへ、彼なりに4歳なりに興味を持っていたようです。

Q

：お父さんと一緒に遊ぶ場としてはいかがでしょうか。

成松： そうですね、幼稚園とはまた違った刺激があると思います。幼稚園は子ども同士や子ども達の集団で先生が一人ですね。みえこどもの城は4歳位の子どもだと、親と子が一緒に行って「これどうして飛ぶんだらうね」という話が出来るという意味では、非常に日常と変わった刺激の中で、会話というか子どもとのコミュニケーションが出来ると思いますね。日常的なこと

から離れる、と言うと変ですけど、また違った会話の中で「すごかったね」とか「おもしろかったね」という、そういうきっかけになると思いますね。だんだん成長というか、子どもの興味の対象が広がっていくことが分ります。

【財】三重こどもわかもの育成財団の課題



：子どもの育ちの先を見据えれば、「三重こどもわかもの育成財団」では幼児と親が相手だけではなくて、小・中・高っていう流れを作っていく必要がありますね。

成松： そうです。特に、今は子どもの親の多くは、ほとんどサラリーマンで、親の働く姿を見る機会は少ないですね。例えば、技能士会のような方々からいろんな技を見せていただき、教えていただき、子どもの成長とともに継続的に経験させていただくって事は非常に良いことだと思います。

世の中にはいろんな仕事があって、いろんな大人を見てどう大人になりたいのかって、生き方への憧れを持つことは大切ですね。このような機会は、みえこどもの城だけではなくて他の所と、学校などとも連携してってということになるかもしれませんが、小学生、中学生へ「格好いい大人」ってというのはすごいなと、いろんな職業があるんだということが、実感できるっていうのは非常に良いことです。今は育ち方が画一化、単線化というか、単調になっていますので、学校行って放課後クラブへ行って、帰ってくると、家の中ではお父さんとお母さん。その繰り返しの中で、日曜日にはショッピングセンターに行く。そういう形になると、それだけの世界ができてしまう。なかなか仕事への憧れとかいうのが出てきづらい。

しかし、現状ではやっぱりみえこどもの城へのアクセスがネックですね。どういう形がアクセスしやすいのかってことは考えていかななくてはいけないですね。

小学校高学年位になりますと子ども同士の行動が多くなりますが、平日の学校があるうちの昼間ってというのは基本的に来ませんから、夏休みとかの交通アクセスです。公共交通機関へのお願いも含めて検討すべきでしょう。

「三重こどもわかもの育成財団」としても、青少年育成市町民会議との関係で、施設自体が使命というか、何をターゲットにするかっていうのはありますね。先を見越しながらもやっていくということがいるのではないかと思います。青少年育成市町民会議の人たちと地域の子ども達との活動ってというのは、みえこどもの城が子ども達を相手にしていることと「青少年育成」という趣旨は一緒なんですね。みえこどもの城の役割は地域の活動へ先駆的な示唆を提供することでもあります。

地域にも児童館がありますので、みえこどもの城が実施している“移動児童館”は原則として、児童館の無い場所に行ってもらっていますが、現在、青少年育成市町民会議も活動を独自に行っておられますので、それと“移動児童館”の活動と二重になる部分があってはやっぱりもったいないですね。「うちらがやると同じ」みたいになっては、みえこどもの城の存在意味が無い。

みえこどもの城と青少年育成市町民会議の相互活用ってというのは、まだもう少し段階がいるのではないかなという気がします。連携とかで活動に深まりができる展開ってことを考えなきゃいけないですね。上手に融合していただくのがいいと思うんですけど、それぞれが持っているツールをどのように組み合わせる方向で示すことができるか、ってということもありませんね。

あとがき 「財」三重こどもわかもの育成財団」がスタートして、しばらくは色々あるかもしれませんが、活動を見れば、だんだん良い方向が出てきているように思われます。子ども・若者と共に、大人も未来へ向かって羽ばたいていきましょう！
(文責 中西智子)

少年の主張三重県大会報告

平成18年8月27日、松阪市ハートフルみくもにおいて、「第28回少年の主張三重県大会」が開催されました。本年度は県内17校から2,506名の応募があり、選ばれた13名が本大会で自らの主張を発表しました。

本大会では、松阪市立三雲中学校の皆さんによる司会進行や演奏会など、中学生自身による運営コラボレーションが実現し、大会は大いに盛りあがりました。

なお、来年度から本大会は持ち回り開催になり、第1回目は四日市地区で開催されます。

審査結果発表

賞	中学校	学年	名 前	タイトル
最優秀賞	多度中学校	1年	平野 実和さん	ゴミ問題と仲間作り
優秀賞 (順不同)	三雲中学校	1年	石川 紗矢さん	障がいのある人とふれあって
	暁中学校	3年	原 美築さん	自分らしく生きる
	皇學館中学校	3年	森 茉莉さん	世界を愛する心。あなたを愛する心
	三重中学校	2年	田辺 奈津実さん	家庭文化の伝承
優良賞 (順不同)	赤羽中学校	2年	平野 はるみさん	私の考える福祉
	紀北中学校	2年	安藤 莉央さん	お年寄りとのふれあいを通して
	赤目中学校	1年	中嶋 健二さん	優しさあふれる世の中へ
	輪内中学校	2年	糸川 洋子さん	幸せな私ができること
	海星中学校	3年	須藤 昂さん	日本の税制問題
	赤目中学校	2年	藤田 美優さん	言葉
	多度中学校	2年	石川 恵未奈さん	私の未来
	鈴鹿中学校	2年	杉野 加奈さん	2006年5月9日－思い出の学年集会－

●学校奨励賞（順不同）

多度中学校、暁中学校、海星中学校、鈴鹿中学校、三雲中学校、皇學館中学校、大宮中学校、赤目中学校、紀北中学校、赤羽中学校、尾鷲中学校、九鬼中学校、輪内中学校、有馬中学校



三雲中学校音楽部の演奏会



司会の三雲中学校生徒会の皆さん

最優秀賞

「ゴミ問題と仲間作り」

桑名市立多度中学校 1年 平野 実和さん



環境についてよく「一人一人の意識が大切」という言葉を聞きます。では、その一人一人の意識はどこから、どうやって高めていけばいいのでしょうか。

今年の5月、学年の取り組みとして、デイキャンプに行きました。小学校の時にもキャンプをしたことがありましたが、その時は友達と遊んでいるだけでした。でも中学生は、一歩社会人に近づいたということで、自然や環境の事を深く考えることがテーマでした。

キャンプの内容は、飯盒や調理、川遊びなどでした。火にくべるための薪、飲み物を冷やすための冷たい水、身も心もさわやかにしてくれる澄んだ空気。自然の中には、豊かな資源がありました。しかし、それらは無駄に使ったりすれば損なわれてしまう、貴重なものだということが気がつきました。逆に言えば、自然を大切にするには、知恵と工夫が必要だということです。たとえば、そのキャンプ場には、一つのグループで使用できる薪は一束のみという決まりがあります。それによって、グループの中で協力しながら、自然のありがたみを実感する事ができました。

振り返ってみると、私はこの取り組みを通して、環境や自然に対する二つの事を学べたように思います。一つ目は、仲間の大切さ、そして一人だけでは何もできないということです。みんなで協力してこそ、ゴミを拾ったり、分別したりがうまくいくのです。また、班の行動はもちろん、他の班や組の子達とも連帯して、分別したり、交流を持つことができたのです。その時、私は友達と環境を守ることができて、とてもうれしかったです。

二つ目は、キャンプ場の管理人でいらっしゃる中村さんのお話から学びました。「環境を守るためには、誰か一人に任せてはいけない。」中村さんのお話の中で、特に印象に残っている言葉です。確かに、

一人ががんばって自然を守ろうと努力したとしても、他の心ない人が環境を壊すような行動をしていたら、良くなるばかりか悪化していく一方でしょう。「環境を守ろう」という意識を周囲の人と話し合い、確かめ合うことで、環境はよくなっていくと思います。そして、よい行いを認め合い、尊重しあえる関係作りが大切だと思います。私たちにすばらしい言葉を下さった中村さんに、私は感謝の心を抱いています。

地域の清掃活動である「クリーンアップ作戦」には、小学校の頃から参加していましたが、小学校の時は、ゴミを拾うことに対して「汚い」という気持ちを捨て切れませんでした。ですが、環境のことを学んだ今は「この多度町のゴミを一つ残らず拾ってやる」という強い気持ちに変わりました。学ぶことで、行動も変わる。私は、今回そのことを、身をもって感じる事ができました。と同時に、環境のことで活動することが大好きになりました。だから今、私は多度川に落ちている缶などのゴミを拾って家に持ち帰り、分別して処理しています。ささいな事でも迷わずに行動してみると、環境のことを考えられる人間に変われるのだと思いました。

確かに、蚊帳の外で「環境って何?」と不思議に思っている人もいると思います。そんな人には、今まで環境について習ったことを説明してあげたいと思います。人間によって様々な考え方はあると思うけれど、話し合うことで、仲間作りができていくように思うのです。また、そういう人には、一緒にゴミの分別を体験する機会があるといいと思います。そうすれば、その人は行動し始めると思います。つまり、具体的な行動を通して、環境を一緒に守る仲間をたくさん作っていくのです。これも、デイキャンプを通して学んだことの一つです。一人の力は小さいけど、周りにいる友達などに声をかけていくことで、一緒に環境を守ることができていくと思います。

「一人一人が気をつける」というには、誰しもが口をそろえたように言うことですが、それができていない現状をふまえて、行動していく必要があります。私がデイキャンプで学んだことは、仲間作りの大切さです。そして、そのつながりには、小さな行動の積み重ねによって作られていくのだと思います。小さなことからでも、積み重ねを通して仲間を増やしていくこと。それが私の、環境対策です。

地域社会における子どもの安全を目指して

～紀北町紀伊長島青少年育成協議会の取り組み～

紀北町紀伊長島青少年育成協議会事務局 日合 豊

近年、地域での子どもを狙った事件をはじめ、子ども達が巻き込まれる犯罪が多発し、家庭、学校、地域社会、行政機関等を含めた「人と社会の安全」が問われています。

紀北町でもこの課題解決のために、さまざまな取り組みが行われていますが、特に紀伊長島区では、旧紀伊長島町時代から青少年育成協議会が主体となって地道な取り組みが続けられています。今回は、紀伊長島区での取り組みを紹介しながら、特に「子ども110番の家」の取り組みに焦点を絞ってご報告しようと思います。

①子ども110番の家

平成12年度に、町内各所に、子ども達が身に危険を感じた時、一時的に緊急避難できる箇所を町内独自で「セーフティハウス（安全の家）」という名称で登録したのが始まりです。平成16年に、誰にもわかりやすい名称をとということで、「子ども110番の家」に変更しました。



現在、紀伊長島区内を旧市町村区である4地区に大別し、各地区に通学路等児童生徒の出入りする可能性の高い23～35の商店や工場等、常駐する大人がいる箇所に設置をお願いしています。さらに、町PTA連絡協議会とも共催で毎年、パトロールを実施し、青少年育成協議会、学校、PTAの担当者がチームを組んで、町内の設置箇所は現在も大人が常駐しているかどうか確認したり、設置箇所の増設などを検討するとともに、子ども達の実態について聞き取りをしたり、看板の増設や取替えなども行ってきました。

特に、学校や幼稚園等については、教育委員会を通じて、さまざまな機会に、「子ども110番の家」のマップをはじめとする安全確保に関する情報を提供し、子どもたちにこれらをしっかりと正しく活用できるような指導をお願いしています。

こうした取り組みの中で、子どもたちはもちろん、お店の人たちにもしっかり定着してきており、学校帰りに体調が悪くなってトイレを借りたりとか、自然に言葉をかけあったり、困った時は安心して相談できる環境が整いつつあります。人を見たら、警戒しなさいと言われることの多い現代の子ども達に、安心してつき合える大人たちがおり、その人たちの顔がはっきりわかるような取り組みが今後とも必要になってくるのではないのでしょうか。

②地域のおじさん・おばさん運動

地域社会における安全確保には、地域住民の協力が欠かせません。特に、活動的な児童・生徒の安全を確保するには、より多くの地域の目が光っていることが大切であり、しかも意識を持って暖かく子ども達を見守っていただくことが重要であります。

その意味で、平成12年度から啓発、研修活動を進め、この運動に積極的に参加していただける会員の登録の拡大に努めてきています。現在、79名に会員証を発行しており、この方々も「子ども110番の家」同様、地域の子供達にとって、頼りになる存在です。

③あいさつ運動

地域の大人と子ども達の絆を深めようと、紀伊長島区内を9学校区に分け、小・中・高校のPTA等とも連携して、登校時のあいさつ運動に取り組んでいます。「あかるく、いつでも、さきに、つづけて」を合言葉に、声をかけあう中で、元気なあいさつができるようになり、自然に笑顔で応対できる間柄になっています。

今後の紀北町青少年育成連絡会議としては、各関係機関の連携や協力体制をより一層構築し、活動の質を高めていくと言うことが課題です。

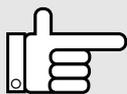
“わかすぎ時評”では、青少年育成に関するその時々話題や評判になっていることなどを提供し、読者の方々から届いた地域での話題やご意見を紹介します。お気づきのこと、ご感想を事務局へお寄せください。お待ちしております。

事務局：(財)三重子どもわかもの育成財団 青少年育成グループ
住所 515-0054 松阪市立野町1291 中部台運動公園内
TEL 0598-22-4911/FAX 0598-23-7792

子どもを守る！ —School Guard—

学校や通学路で子ども達が被害者となる事件が後を絶ちません。三重県では、「**スクールガード（学校安全ボランティア）**」の取り組みを始めて2年目です。これは、文部科学省の委嘱を受けて実施する“地域ぐるみ学校安全体制整備推進事業”の一環です。**スクールガード**の仕事は、防犯の専門家として巡回しながら【何も無いように、点検・パトロール】をする地道な取り組みです。見落としがちな危険箇所や警備の視点について、どのように改善すれば良いのかなどを学校や地域へ具体的に指導します。子どもの目線で犯罪が起きやすい場所(空家、停まっている車、街灯など)のチェックを歩いて調べます。

スクールガード養成は、警察官OBや教員OB (**スクールガードリーダー**) に協力してもらっています。専門家の視点を学び、教育委員会・保護者・園や学校・民生児童委員・警察・消防署・防犯協会・老人会などとの連携を密にしてネットワークシステムを構築することとしています。三重県教育委員会事務局学校安全・安心特命監 土肥稔治さんにお話を伺いました。



「より多くの目で子どもたちを見守りましょう」

三重県教育委員会事務局学校安全・安心特命監 土肥 稔治

土肥： スクールガードがスタートする以前から、子どもを見守るため登校時間帯にワンワンパトロール(犬の散歩)や洗濯物を干したり入れたりすることをお願いしてきました。子どもたちの姿を視野にいれていただき、お互いの顔を知ることが大切ですので、地域の方たちへ協力願っているのです。今年度は犯罪防止のために警察官OB・教員OBの人たちをスクールガードリーダーとして、防犯の専門家の立場でスクールガードの指導・研修を委嘱しました。学校や通学路の警備のボランティアという立場です。

本来、子ども達の安全安心は特定の人に任ずるというではありません。また、学校(スクール)に限っているでもありません。より多くの人たちの目で子どもを見守ることです。遅くまで遊んでいる子へは早く帰るように一声かけるなど、本質的に、従来の地域で青少年育成へ関わっていただいている人たちと同じです。

我々としては、今後は、不審者情報を携帯電話やパソコンなど情報技術を駆使してパッと流して、地域で情報を共有し、いち早く対応できる体制作りを目指したいと思っています。スクールガードの取り組みは、県内でも半数ほどの小学校で進んでいますが、今後は全小学校で取り組まれるようにPTA等に依頼しているところです。



「地域安全マップ」

土肥： 子ども達自身が危険な場所を認識できるには、『子どもの目線で犯罪が起きやすい場所を考えること！』このことが大事ですから、地域安全マップ作成には力を入れています。その時に防犯の専門家としてのスクールガードにも協力を依頼しています。

学校周辺や通学路などの危険な場所や犯罪が起きやすい場所を歩き、実際にスクールガードと一緒に考えさせながら、作成することです。これは親子で考えながら作成すると一層効果的です。例えば塀や生垣、草の茂みなどの高さは、子どもの目線と大人の目線は違うのね。犯罪者が入りやすい場所とカ外から見えにくい場所のように、犯罪に巻き込まれやすい死角というのがありますから、親も認識します。そして親子で、自分ならどうするか、を考えることが重要です。子ども達自身が自らの安全を守るためのプログラムの一つです。

地域安全マップができれば、危険だと思ふ所を安全なところへするにはどうすればいいか話し合ったり、警察へたずねるといいですね。大切なことは、子ども達を守る監視バリアを張り巡らすことです。

監視バリアの一つに、民間パトロールの青色パトロールがあります。通称「青パト」も防犯パトロールしています。全国で初めてですが、四日市市の別山地区では警察へ申請して、青色回転灯をつけた車が走っています。

青少年育成指導者のための三重県 スキルアップ研修会開催案内

「青少年育成指導者のための三重県スキルアップ研修会」は、青少年育成運動展開のため、青少年育成に関し中核的な役割を担うべき人材を養成し、その対処能力を高め、もって青少年育成運動を強力に展開することを目的として実施されます。

〔テーマ〕「子どもを地域で見守り育てよう！」
～子どもを安全に育むために
地域社会で何ができるか考えよう～

〔開催期日〕平成18年12月2日（土）
10：00～16：00

〔開催場所〕松阪グリーンホテル
（松阪市中町6-350-1）

〔参加対象〕青少年育成指導者、
青少年育成活動者等

〔主催〕内閣府（社）青少年育成国民会議
（財）三重こどもわかもの育成財団

〔問合せ〕（財）三重こどもわかもの育成財団
青少年育成グループ（TEL.0598-22-4911）



▲登校時の子どもを見守るスクールガード



▲完成した地域安全マップ



▲地域安全マップを
作成する子どもたち

三重県教育委員会提供

編集後記

現在は、子ども達が自ら持っている「内なる力」である、「危険回避の力」をどのようにして引き出し育み磨くか、という事を真剣に考えていく必要が有ります。今は防犯グッズに加えて、防刃効果のある特殊繊維の制服、GPS（全地球測位システム）のタグを入れるポケットの付いた服などが製品化されている時代なんです……。

『わかすぎ』編集長 中西 智子

※今回、掲載を予定していました「青少年育成調査研究事業」の結果報告は紙面の都合上掲載できませんでしたので、次号に掲載します。